

シリーズ 第1回

鳥取市の誘致企業を紹介します!!

問 第二庁舎企業立地・支援課 ☎ 0857-20-3223

● シティコンピュータ株式会社 鳥取支社

平成25年7月に鳥取市で業務を開始しました。国内では4拠点目(国外3拠点)となります。進出の決め手となったのは、鳥取市は地震発生の可能性が低い地域であることや同業種の求人が少ないため優秀な人材の確保が期待できることがありました。また、交通面でも、鳥取自動車道の全線開通により、他拠点からもアクセスが便利になったところにも魅力を感じました。実際に働かれている社員は優秀な人材も多く、今後ますますの発展を期待できると感じております。現在はデータ入力、事務処理代行、書類の電子化業務等を鳥取で行っておりますが、今後は、政府が進める子育て世代の女性の就業や障がい者就労支援として、在宅での業務にも力をいれていきたいと思っております。

代表取締役
川原 純行 さん

働かれている社員は優秀な人材も多く、今後ますますの発展を期待できると感じております。現在はデータ入力、事務処理代行、書類の電子化業務等を鳥取で行っておりますが、今後は、政府が進める子育て世代の女性の就業や障がい者就労支援として、在宅での業務にも力をいれていきたいと思っております。

所在地 鳥取市千代水1-100 10階
従業員数 33人(全体880人)
業務内容 データ入力、事務処理代行、翻訳作業、書類の電子化、人材派遣、システム運用・保守、医科調剤システムの販売・サポート



社内のようす

● アロイ工業株式会社 鳥取工場

平成25年11月1日に河原町布袋に当社のリチウムイオン二次電池の生産拠点を構える事となりました。これからのスマートエネルギーの中核を支える事の出来る可能性を秘めた電池産業をこの鳥取の地で鳥取市と共に成長を続けていきたいと思っております。

鳥取工場を構成する社員は、鳥取市及び周辺町村から人材を採用させていただき、約50人体制でスタートしました。3～5年後には120人体制で事業を展開していくことを目指しています。

他社にはない、高出力 低価格の商品づくりと小回りのきく生産体制で事業を成功させ、鳥取を“リチウムイオン電池の街”とする大きな夢を現実のものと思っております。

所在地 鳥取市河原町布袋 525-2
従業員数 50人(全体90人)
業務内容 リチウムイオン二次電池 製造販売

大容量、薄くて軽いリチウムイオン二次電池です。色々な商品への搭載が可能です。



鳥取工場社屋



昨年9月4日に避難勧告が発令された福部町内の地域のみならず

鳥取市消防出初式で活躍する地域のみならず

リテラ豪雨などがあり、備えは必要です。その中で、市庁舎整備は緊急に実施すべき重要な事業です。また、各地域の消防団や自主防犯会など、地域の組織がもっと活動しやすいようにしたいと思っております。

鳥取市の発展に向け、夢を語ろう

ただけるのではないのでしょうか。技術的に難しい面もありますが、駅前前の花時計にらっきょうの花を植えてもらえると、観光面ではよいPRになります。映画館や美術館などについても、夢を実現してほしいですね。何年か後には、鳥取市が人ごった返しているようなまちになってほしいと思っております。

市民のみなさんがもっと地域に自信と誇りを持って、鳥取市を拠点に国内外へ羽ばたく。そのような時代を早く実現したいものです。

対談の様子は、いなびりびよん ネット(12ch)で放送。
日時 1月1日(水)～4日(土) 10:00～14:00、17:00～
※1日のみ12:00～20:00も放送

※対談内容は要約しています。



山陰海岸ジオパークの拠点施設「砂の美術館」

また、「煮えたら食わあ」をやめて、市民一人ひとりが「自分で取り組んでいく」という気概を持つてほしいと思います。

竹内 観光については、山陰海岸ジオパークなどで県境を越えた連携も深めております。全体の資源を上手につなぎ合わせて、地域全体の魅力アップしていかなければならないと思います。

藤縄 例えば、岩美町はジオパークの取り組みにすごく熱心です。智頭町の試みも面白いものがたくさんあります。どんどん広がっていけば、鳥取の観光をも一段飛躍できる気がします。

竹内 今年3月30日からの東京便5便化という、とてもうれしいニュースがありました。これは、商工会議所をはじめ、県、市を挙げて取り組んできたテーマです。これから、積極的な利用促進運動により、利用者を増やしていかなければいけませんね。

藤縄 そうですね。2年というのが気がかりです。できるだけ商工

会議所も努力したいと思っております。昨年、京都府宮津市に行きましたが、宮津道路が開通すれば、宮津の人は鳥取空港まで来るとおっしゃっています。2時間程度かかりませんが、関西の空港よりも便利だそうですね。道路をもっと早く整備していただければ、効果が出てくるのではないのでしょうか。

竹内 道路整備は急速に進んでいきます。高速道路のネットワークを広げ、鳥取から短時間で広範囲に到達できるようにしていくことが、経済・文化交流の発展になります。

他にも、鳥取港から隠岐島への就航や、クルーズ客船の寄港を増やすことなども課題です。鉄道では山陰新幹線構想があり、私は会長として強くお願いをしています。観光の取り組みには、交通基盤の整備が不可欠です。

藤縄 新幹線は本当に夢ですね。空港と港がこれだけ近いというのは全国にもないと思います。観光面でもタイアップできるし、物流面でもかなり有利です。鳥取港は、水深や堤防、金銭面の問題もありませんが、鳥取港のあり方を、経済、観光の両面から検討いただきたいですね。

竹内 利用を拡大したいのです

藤縄 匡伸さん(71)
昭和17年1月3日生まれ。河原町出身。平成8年6月に三菱石油株式会社取締役販売担当就任。平成11年4月には、日石三菱株式会社(現JX日鉱日石エネルギー(株))取締役東京支店長に就任。平成15年に鳥取市にUターン。平成17年9月に日ノ丸産業株式会社代表取締役社長に就任。平成25年11月、鳥取商工会議所会頭に就任。

が、鳥取港の管理運営は県なので、整備には国や県の取り組みが必要ですね。

安全・安心な暮らしを支える施策を

竹内 市民の安全・安心の確保は今年大きなテーマです。医療・福祉分野の人材育成のため、大阪滋慶学園の医療・看護専門学校を鳥取の近くに誘致しました。学校は平成27年4月に開校する予定です。後期高齢者の人口は、2025年以降大きく増えると言われており、現在および将来のために医療・福祉の体制の整備が重

要です。

藤縄 医療・看護専門学校は大歓迎です。流入人口、学生を増やすことはすごくいいことですし、医療体制の充実は今後必要だと思います。環境大学も、公立化によってかなり学生が増えましたね。

竹内 環境大学では、公立化後、あと2年間は学生が増えていきます。加えて、1学年の定員が200人になる医療・看護の専門学校が開校すれば、若者の定住や地元就職の可能性が大きく広がると喜んでいきます。

一方で、昨年本市は、大雨による水害に見舞われました。また、全国的に地震対策が求められています。安全・安心な暮らしのために、防災体制を一層引き締めていく必要がありますね。

藤縄 安全・安心と言いますと、鳥取は台風が来そうでもない。一説では、かなりの期間、大地震が起きないと言われています。企業もこのことは意識しておられるので、民間のレベルでも発信したらどうかと思っています。

竹内 地震の確率は数値で出ています。しかし、これはあくまで確率であり、大地震の可能性はゼロではありません。台風以外にもゲ